校長室だより No.　２２ 平成 28 年 10 月 7 日(金)	強く　やさしく	六ツ美中部小学校校長 加　藤　嘉　一（かとう　よしかず）

授業を考える、授業研究をする

朝の校門前で子供たちを迎えていると、５年生のある男の子が「校長先生！ぼくたち、今日討論会やる。」と、うれしそうに話しかけてくれました。これまで、社会見学やお楽しみ会が楽しみで、登校のときに教えてくれる子はいましたが、国語の授業のことで、そんなふうに話しかけてくれた子はなかなかいませんでした。その男の子は、よっぽどこの授業を楽しみにしていたのでしょう。

「へえ、何の討論会をやるの？」と聞くと、

「『子供たちだけで、知らない町に行くべきではない』に賛成か反対か。」と言っていました。

対立軸のある話を討論することは、子供たちは大好きです。担任の先生が、子供に興味の沸く題材を選び、上手にその気にさせてくれたと思いました。

子供たちをやる気にさせれば、授業の８割は成功でしょう。わたしたちは、授業をするときに、大雑把に以下の３つのことをおさえて計画をします。

① どのような力をもつ子供に、どのような力をつけるのか（ねらい）
② どのような教材（題材）で、どのような内容の授業をするのか（教材の力）
③ どのような方法で授業をするのか（指導方法）

これだけを考えれば、授業ができるものでもありません。これは計画です。実際にこの計画を立てても、子供の反応は予想とは違う動きをすることがよくあるので、授業は子供と一緒に作っていきます。ここからは、先生の個性と経験の見せどころです。

今年は、市内の先生方とともに学ぶだけでなく、視野を広げるために、市外の先生を招いて、授業観や今後求められる授業の方向を学ぶ計画を立てました。

その研修が、先週２８日（水）に行った１年２組（青木先生）の国語の研究授業です。講師には、大妻女子大学准教授（前国立教育政策研究所教科調査官）樺山敏郎先生をお招きしました。

教材は、「サラダでげんき」。病気になったお母さんのために、主人公のりっちゃんがサラダを作るのですが、いろいろな動物達が、サラダに入れる具材や作り方のアドバイス、そしてお手伝いをしてくれるお話しです。驚いたのは、１年２組の子供たちの誰もが、本文を暗記しているのではないかと思うくらい、教科書のどこに何がかかれているかがわかり、お話にどっぷり浸かって楽しんでいることでした。これは講師さんもびっくり。講師さんからは、今後求められる力とそのための授業の考え方を教えていただきました。多くの学級の授業研究が進みそうです。

知識の伝達・説明（解説）中心の授業、計算や漢字のドリル学習だけでは、豊かな学力が育たないことをわたしたちは経験から学んでいます。子供の学力として、「知識・技能」「見方・考え方・感じ方」「判断力」「表現力」「概念」等に加え、今「学びに向かう力」「汎用的能力」「多くの価値観を理解し共感する力と創造する力」等の必要性が議論されています。子供たちの将来に役に立つ力を考え続け、わたしたちは授業研究に努めます。子供たちには、学校で仲間とともに学ぶ学習と個の学びの両面を大切にしてほしいと思います。

学習環境をつくるⅠ　－先生方のしかけと努力－

授業研究に加え、教科担当の先生や学年主任さんが、今大いに力を発揮し、これまでにない学習環境づくりに工夫してくれています。右は青山先生が作った「６年生や有名選手が１秒間に走る距離の表示」です。教科書や日常生活と学びがつながっていることに気付かせるため、また子供の見方や考え方、感じ方を広げるために掲示の工夫に力を入れています。

子供がこれに刺激され、学びにつないでくれたらと思います。

【算数：速さ・時間・道のりの表示】

【生活科・算数：ひまわりの種】

【英語：英語の絵本や新聞】

【国語：季節の有名な俳句】